

Reading the Stars

星の読書・夏 | 藤本由紀夫

定員 | 80名 参加 | 無料(ただし要観覧券) *申込不要、直接会場へお越しください。

2019年7月15日 | 月・祝 | 17:00 - 19:30

創造的な「読書」のために

内藤 濯 訳

『星の王子さま』

サン・テグジュペリ

夕やけの空が見られるわけです。

見たいと思つて

ほんのちとつと動かすだけで

すわつていらいます。

あなたのもつけない星だったら

だけれど、

040

016

But on your tiny planet,

my little prince, all you need do is

move your chair a few steps.

You can see the day end and
the twilight falling whenever you like...

Antoine de Saint-Exupery
The Little Prince

助成 | 公益財団法人 神戸文化支援基金
神戸文化支援基金

芦屋市立美術博物館

Yukio Fujimoto



芦屋市立美術博物館

アートスタディプログラム まなびはく2019

星の読書・夏 | 藤本由紀夫

(*astronavigation)

主催: 芦屋市立美術博物館/*astronavigation

助成: 公益財団法人 神戸文化支援基金



開催日時: 2019年7月15日(月・祝) 17:00-19:30

定員: 80名 / 参加費: 無料(ただし要観覧券)

*申込不要、直接会場へお越しください。

「読書」とは書物を読むという意味を持ちます。
併せて、世界を構成する様々な物事を
読み解くという行為も含まれていると考えます。

美術館で鑑賞していると、人の気配に触れ、
来館者の会話や足音が聞こえてきたり、
回廊を歩くと窓から射す光の移ろいに出会います。
時間と空間が絡み合い常に更新される環境の中、
自ら足を運び作品や空間を読み解いていくと
「私の世界」は広がり続けていくでしょう。

ミュージアムをひとつの書物と考え、
創造的な「読書」を試みます。

今回の「まなびはく」

8月17日[土] 14:00-16:00

「美術館ってどんな場所?—教育普及現場からのお話」

登壇者 | 清家三智氏(名古屋市美術館 学芸員)

避免寛子氏(兵庫県立美術館 学芸員)

本丸生野氏(姫路市立美術館 学芸員)

プロフィール

藤本由紀夫 Yukio Fujimoto

アーティスト。70年代よりエレクトロニクスを利用した
パフォーマンス、インスタレーションを行う。
80年代半ばよりサウンド・オブジェの制作を行う。
2001、2007年ヴェネシビエンナーレ参加。

大西正一 Masakazu Onishi

グラフィックデザイナー。タイポグラフィを軸に置きながら、
「質感」や「透過性」、「重さ」や「重なり」、「動き」や
「時間」など、テーマに合わせてあらゆる要素を取り入れ、
コンセプトを立体的に表現するデザインを展開している。

芦屋市立美術博物館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25

Tel: 0797-38-5432 / ashiya-museum.jp

アクセス

徒歩:

阪神電車芦屋駅から南東へ徒歩15分

—

バス:

「新浜町」または「芦屋市総合公園前」行き

(31、32、35、36、131系統)乗車、

「緑町(美術博物館前)」下車、徒歩2分

[バスのりば]

阪神電車芦屋駅南側2番、JR神戸線芦屋駅北側5番、

阪急電鉄芦屋川駅南側5番 ※併設駐車場 / 1時間無料

鈴木大義 Hiroyoshi Suzuki

グラフィックデザイナー。分野を横断した双方向的な
視点から、タイポグラフィにおける同時代性について
研究を行っている。

—

中山博喜 Hiroki Nakayama

写真家。大学卒業後、NGO団体・ベシワール会の
現地ワーカーとして活動に参加。活動の傍ら、パキスタン、
アフガニスタンの日常を撮影する。帰国後は撮りためた
写真を個展などで発表するとともに、色彩をテーマとした
カラー作品の制作を行っている。

—

守屋友樹 Yuki Moriya

写真家。大学在学中、写真の古典技法を研究した後、
写真におけるイメージと物質が持つ情報の
在り方から作品制作を行っている。デザイン、美術、建築、
ファッションなどの記録に携わる。

